

四恩学園の英語保育 その素晴らしさと卒園後のフォローアップの必要性

白水 重憲¹⁾

要旨 「和魂洋才」、子どもさんを英語が旨くしゃべれ、米国の文化も判っている日本人にしたいのならば、多分、ナザレ幼稚園バイリンガルコースが日本一でしょう。同レベルはあっても、もっと良いというものは無いと思います。幼稚園に通い、幼稚園で楽しく過ごすだけで実践的なネイティブイングリッシュが身につくのですから。

バイリンガルコースの子どもたちがネイティブイングリッシュを話すといっても幼稚園児のレベルの会話です。子どもが小学校になり、学年が上がっていくにつれて日本語の表現が発達するように、英語の表現も発達しなければいけません。また、教育を続けない、日常生活でも英語を使わないという状態が長く続くと、子ども達は段々英語を忘れていきます。

四恩学園ではフォローアップ教育を学童保育のコーナー保育のような形で開始する必要があります。

スピーキング：年齢にふさわしい表現ができるように、また、能力の衰えが無いように。

リーディング：英語の子ども向けの偉人や建国の英雄たちの本を読む。

文法・語彙：基礎力を公文等の方法を使用して行う。

キーワード：ネイティブイングリッシュ、フォローアップ、学童保育、コーナー保育

1. 四恩学園の英語保育の素晴らしさ

今年、四恩学園のお泊まり保育のシーズンには、4つの部門（幼稚園バイリンガルコース、幼稚園、保育園、学童保育）すべての、キャンプファイヤー等、夕方から翌朝出発までを観察させて頂きました。

本稿では、バイリンガルコースの英語保育の素晴らしさに感銘を受けて、これまでの自分と英語の関わりを振り返りながら、子どもを真の国際人に育てる為の方策を考えました。

バイリンガルコースのお泊り保育には驚きました。先生方の指示、指導のみならず、子どもたちが和気あいあいと楽しく騒ぐ言葉さえ、すべて英語で自然に行われていました。一般的な英会話教室のように、ただ外国人と1日1～2時間英語で遊ぶだけの内容ではなく、ネイティブスピーカーの先生と幼児教育の資格をもった日本人教諭の1クラス2名体制の中で、徹底した英語による教育と保育がしっかり両立しており、楽しく過ごしながら、実践的なネイティブイングリッシュが身につけていました。更に、驚いた事に、日本人の先生達も、人前で英語を話すという大きな障壁（英語を習得する際の最大の障壁）をクリアして英語

で話し、教育していました。ふと「和魂洋才」という言葉が頭に浮かびました。

私は、英語に関しては、結構特異な経験をしています。

幕藩時代からの伝統を誇る田舎の高校で教育を受けた私にとって英語は、欧米の進んだ物理学・数学を勉強する手段、より上級の学校に進学する資格を得るために勉強するもの、そして家庭教師として子どもたちに教えるものでした。外国人と会話する事に興味も憧れもありませんでした。

大学4年の時に、日韓議員連盟教育視察団の一員として、釜山の空港に降りたって入国審査を受けたときに係官の英語をうまくキャッチできなかったのが、英語をコミュニケーションの道具として認識したきっかけです。数日後に控えた韓国の大学生との会談の為に、移動のバスの中、頭の中での英語のトレーニングを続けました。

大学院に入ると、米国で博士号を取得したマレーシアの大学の講師の招聘研究員の下に8ヶ月もつけられてしまい、君自身の研究ノートも英語で書いてくれと、大変な思いをしました。

出光興産の中央研究所では、研究所内部で開催されている3コースの英会話教室の運営責任者を

1) NPO法人セルフケア総合研究所

任され、3人の良い教師を確保する、教育の進め方に関する討議をする、数日間の合宿研修を運営することを経験しました。青葉台駅の隣に、昔、激しい交渉を行った相手であるShane氏の運営する英会話教室の看板を見つけ、彼の教室も大きくなったなど今は懐かしく思っています。

米国マサチューセッツ州のマサチューセッツ州立大学に客員研究員として派遣される事が決まったので、当該地域に高校時代留学した事があり、当時もホストファミリーと親戚付き合いをしていた「洋魂洋才」の女性を紹介され、見合い結婚をしました。米国滞在中は、多くの時間を「ドイツ系」と「イタリア系」の米国人家庭で過ごしました。

このように、米国人に関する想いは、「鬼畜米英」から「親戚・友人」へと変化していきました。



イタリア系の義母、義妹と

この経験を基に判断させて頂けば、「和魂洋才」、子どもさんを英語が旨くしゃべれ、米国の文化も判っている日本人にしたいのならば、多分、ナザレ幼稚園バイリンガルコースが日本一でしょう。同レベルはあっても、もっと良いというものはないと思います。幼稚園に通い、幼稚園で

楽しく過ごすだけで実践的なネイティブイングリッシュが身につくのですから。

大手企業から米国の大学や海外支店に数年間派遣され、小さな子どもを連れて赴任する方が昔は結構いました。父親について行って数年間海外生活を楽しむだけで英語が上手くなる？バイリンガルコースと同程度に一見楽そうな方法はこれしか思いつきませんでした。

しかし、これは間違いです。バイリンガルコースの子ども達ほどの英語力を身につけて帰国した例は私のまわりにはありませんでした。私のいたような大きな大学では、どこの国の人も同国人の集団を作ってしまう（フランス人も、ドイツ人も、インド人も、日本人も）、海外支店の場合は更に会社の間人関係があります。日本語で生活する時間が長いのです。

外資に雇われた人、外国の大学に長くいるチャンスをつかんだ人は別です。子どもを米国の幼稚園、学校に入れば英語だけは旨くなります。ただし、「洋魂洋才」日本生まれの米国人になります。クリーブランド・クリニックで長くいれるポストを得た知り合いの娘と息子がそうになってしまいました。中身が米国人で外観は日本人、逆だったら良いのにね。

2. フォローアップの必要性

幸か不幸か、私の子ども達の母親は、留学中に義母と義妹に徹底的に発音の教育をされ、ネイティブ並みの英語を喋ります。子どもたちも幼稚園の頃までは徹底的に教育され、ネイティブ並みの英語を喋っていました。国際学会に連れて行って、私の講演とその後のディスカッションを聴かせても、「パパの発音下手くそ！」というありさまでした。そうです、私は今に至るまで下手くそです。家では英語を口にしない日々が続きました。多分、バイリンガルコースの子どもたちにも同じ事をいわれるのでは無いでしょうか？

バイリンガルコースの子どもたちがネイティブイングリッシュを話すといっても幼稚園児のレベルの会話です。子どもが小学校になり、学年が上がっていくにつれて日本語の表現が発達するように、英語の表現も発達しなければいけません。

私の子ども達の場合、3年生になった頃、子どもも母親も忙しく、また当面の必要性も無いことから、教育を止めてしまいました。教育を続けないう、日常生活でも英語を使わないという状態が長く続くと、子ども達は段々英語を忘れていきました。

更に、中学校になると、会話よりも教科書を読むことを重視し、ノンネイティブな発音で、語彙力と文法を重視した「学校英語」が始まります。段々、難しくなる文法、読解を高校入試、大学入試の為に勉強しているうちに、話し言葉の中に関係代名詞句を使って、ネイティブの友人に「話すときにwhichなんか使うなよ」と笑われるような英語を話すようになります。

勿論、今の日本で生きていく以上、学校英語を無視する事はできません。一生懸命勉強する必要があります。しかしながら、バイリンガルコースで習得したネイティブイングリッシュスピーキングと学校英語を別のもの、あるいは対立するものとして勉強するのではなく、ネイティブイングリッシュスピーキングをベースとして学校英語も勉強したいものです。

その為には、四恩学園ではフォローアップ教育を開始する必要があります。

- 1) スピーキング：年齢にふさわしい表現ができるように、また、能力の衰えが無いように。
- 2) リーディング：英語の子ども向けの偉人や建国の英雄たちの本を読む。
- 3) 文法・語彙：基礎力を公文等の方法を使用しで行う。

小学校の間に、学童保育の一環として、コーナー保育のような形でこのような教育を行っておけば、総合的な学力が身に付き、学校英語が始まっても一歩先んじた状態で臨む事ができます。

アメリカ人の家族と家族ぐるみの付き合いを重ねて判った事は、彼らは（特にお年寄り）は）自国の歴史や偉い人の事に誇りを持ち、こちらが知識を持ち、また興味を持つと喜ぶことです。新聞を読みながら、お前はどう思うと聞いてくれるようになります。そして、こちらも自分の国の歴史に同様の誇りを持ち知識を持っていると思っています。自国に誇りを持ってない人間は、真の意味での国際人とはなり得ないのではないかと思います。従って、私の頭の中の学童保育の4つ目のコーナー保育は、自国の歴史や偉い人の本を読むことです。

幼稚園の頃から十分に身体活動を行い、体、脳、運動神経を発達させ、総合的な英語力があり、読書力もある、幸せな人生を歩むのに、他に何が必要でしょうか？